

内分泌内科ストレートコース カリキュラム

内分泌内科ストレートコースは、内分泌疾患および糖尿病を中心とする代謝疾患について専門的な知識と技術を習得するコースです。研修期間は3年であり、入院部門および外来部門においてそれぞれの診療能力を高めるとともに、臨床研究の方法も学んでいくことを目指します。糖尿病教育を通して他職種との連携つまりチーム医療の大切さをもっとも体験できる診療科です。

研修方法全般

- 1) 研修期間は3年。
- 2) 週1～2日内分泌内科外来を受け持ち、外来患者の診療にあたります。入院中受け持った患者を外来でフォローします。
- 3) シニアレジデント当直規定に従い月1～2回、救急外来当直を行い自ら診療すると共に、ジュニアレジデントを指導します。
- 4) 内分泌内科入院患者の主治医となります。
- 5) 内分泌内科患者についてジュニアレジデントと共に患者を受け持ち指導します。
- 6) 各種カンファレンスおよび研究会に積極的に参加します。研修で得た経験や研究成果について、年2～3回RCBにおいて発表するとともに、内科学会、内分泌学会、糖尿病学会等関連する学会で研究発表を行います。

内分泌内科の特徴と研修

- 1) 患者数としては糖尿病が多く、その治療に力を注いでいます。とくに、患者の行動変容を促す取り組みについては、糖尿病の自己管理を目標に多職種の専門医療従事者が携わる個別指導教育と集団教育が有機的に展開するチーム医療が構築されています。生活習慣病対策として有用な行動変容の技術が獲得できます。
- 2) 内分泌領域では甲状腺疾患が中心となります。薬物治療はもちろん、手術療法、アイソトープ治療なども可能であり、難治例の治療を経験する機会も多くあります。また、まれな下垂体疾患、副腎疾患等についても経験することができます。
- 3) 糖尿病患者および内分泌疾患患者のQOL測定を通じて、治療の質の向上を目指しています。各種治療法の習得はもちろんですが、それが患者さんにとって真の利益をもたらしているかどうかを検証しています。その方法論の習得ができます。
- 4) 研修においては自主性を尊重し、それを援助します。当科は国内および海外の他施設や専門家とのつながりも多く、いろいろな機会を利用して研修内容を高めることができます。



糖尿病教育コースカンファレンス風景

内分泌内科 後期研修を終えて

内分泌内科医員
飯降直男

私は H13 年に大学を卒業後、当院のジュニアレジデントとして 2 年間の初期研修を行いました。その後は内科を専攻した進路を決めていましたが、当初はどの科を選択するか非常に迷いがありました。

その時に、初期研修中を思い返すとどの科をメインに担当しても、糖尿病の患者さんが非常に多い事に気がつきました。糖尿病は万病の元と言いますが、心筋梗塞や狭心症などの循環器疾患、脳梗塞などの神経科疾患 血糖上昇を伴う肝硬変などの消化器疾患、各種がん治療、ステロイド治療を要する呼吸器疾患、血液疾患、膠原病疾患など様々な病態にからむ事が多い病気です。それらの病気と関わりながら、総合的に勉強できる所は内分泌内科であると考えて進路を決定しました。

糖尿病は慢性疾患の代表的な疾患で、患者さんとの長いつきあいをしながら治療を行う病気です。また、私たちが関わる事の多い高血圧や高脂血症も、生活に非常に密着した病気です。個々の患者さんによって治療の方針が全く変わってきます。全てが教科書通りにはいかない、それが面白い所であるように思います。

もちろん私たちが関わる疾患は、生活習慣病だけではありません。甲状腺疾患、副腎疾患、間脳、下垂体疾患などのホルモンの病気もあります。それらに関して、以下に簡単に述べたいと思います。

① 糖尿病 高血圧 高脂血症

研修の当初は病棟中心の業務、そこで様々な経口血糖降下剤、インスリン製剤を使った血糖コントロールでできるように研修を行います。当院ではインスリン使用患者数が日本でも指折りの施設、たくさんの症例を経験する事ができると思います。これからはそれらの患者さんのデータを集積しつつ、その結果を治療に反映できるように、スタッフみんなで取り組み始めているところです。

糖尿病教育入院の中核を担う糖尿病教室（ホップ・ステップ！ 糖尿病教室 南江堂より出版 参考にしてもらえればと思います）では、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師などと共に週 1 回のカンファレンスの機会を持ち、患者さんの治療に多面から関わった治療を行っています。

また、様々な学会、研究会へもスタッフの先生方と同様に参加が可能で豊富な知識の習得が可能と思われます。

② 内分泌疾患

奈良県内でも基幹病院としてその役割を果たしています。甲状腺疾患（入院ではバセドウ病に対するアイソトープ治療、眼症におけるステロイドパルス治療など） また、クッシング症候群、アルドステロン症などの副腎疾患の術前検査（静脈サンプリングなど） 末端肥大症の評価、治療、下垂体の評価のための 4 者負荷試験など、様々な症例を経験する事が可能と思われます。内分泌疾患に関してもまんべんなく研修できるのではないかと思います。

私たちの科は外来メインでの治療を行う科です。病棟の業務に慣れれば、レジデント研修のうちから、少しずつ外来業務に携われるのも特徴だと思います。勿論その時にはスタッフの先生方のサポートも受けながらです。

内分泌 糖尿病を 3 年間で全てを極められるという訳ではないと思われますが、その礎は築けるのではないかと思います。最後の私自身が感じた事は、当院に内分泌内科は非常に自由な環境ですので、自分から何もしなければ何気ないうちに研修が終わってしまう可能性がある反面、やる気さえあれば比較的何でもやりたい事ができる環境にあるという事です。後期研修の一つの選択肢として当院の内分泌内科での研修を考えて頂ければ幸いです。

